

情報技術委員会 の活動のご紹介 ～ASP連携ガイド、WEB-EDI認定制度～

情報技術委員会

— 目 次 —

1. 情報技術委員会の活動について
2. JEITA 標準クライアントの改修について
3. JEITA WEB-EDI認定活動状況報告
4. ASP標準化WG活動状況報告

— 目 次 —

1. 情報技術委員会の活動について

1-1 情報技術委員会の活動

1-2 多様化、進化するEDI方式

1-3 EDI標準と情報技術委員会の活動対象

1-4 EDI共通基盤における

07～10年度取組み

1-5 平成21年度の活動

経産省ビジネスインフラ事業の取組

1-6 ASP連携実用化の活動について

1-1 情報技術委員会の活動

ECセンタ 2010年度 活動方針

- 1) 業際化の深耕
 - 1-1) 自動車業界とのEDI実用化促進
 - 1-2) 第二次環境情報流通実証実験の実施
- 2) 利用者利便性の追求
 - 2-1) ASP連携の実用化
 - 2-2) データ交換方式選択の自由度向上
- 3) 国際化の推進
 - 3-1) 海外取引モデルの標準整備と実用化
 - 3-2) 日中EC連携の模索
 - 3-3) ECALS辞書のグローバル標準化

情報技術 委員会 活動方針

- 1) 業際化の深耕、利用者利便性の追求を中心としたEDIの技術面からの標準策定
- 2) 中堅中小企業への対応
 - ・JEITA共通クライアントのバージョンアップ
 - ・WEB-EDI認定活動の改善

1-2 多様化、進化するEDI方式

EDI大分類	EDI小分類	通信プロトコル
◆従来型EDI (VAN型EDI)	ファイル転送型EDI ・CII	全銀手順 JCA手順等
◆インターネットEDI	ファイル転送型EDI ・CII ・XML	全銀TCP-IP FTP手順等 ebMS等
	メール型EDI	SMTP/MIME等
	Web型EDI	HTTP/HTTPS等

企業間での大量データ交換による効率化から目的が多様化

⇒ビジネスプロセスの自動化 ⇒情報提示、共有

⇒EDI化率up(少量データ交換、100%EDI化)

⇒双方向での情報交換の活性化 ⇒図面、仕様書など非伝票情報の交換

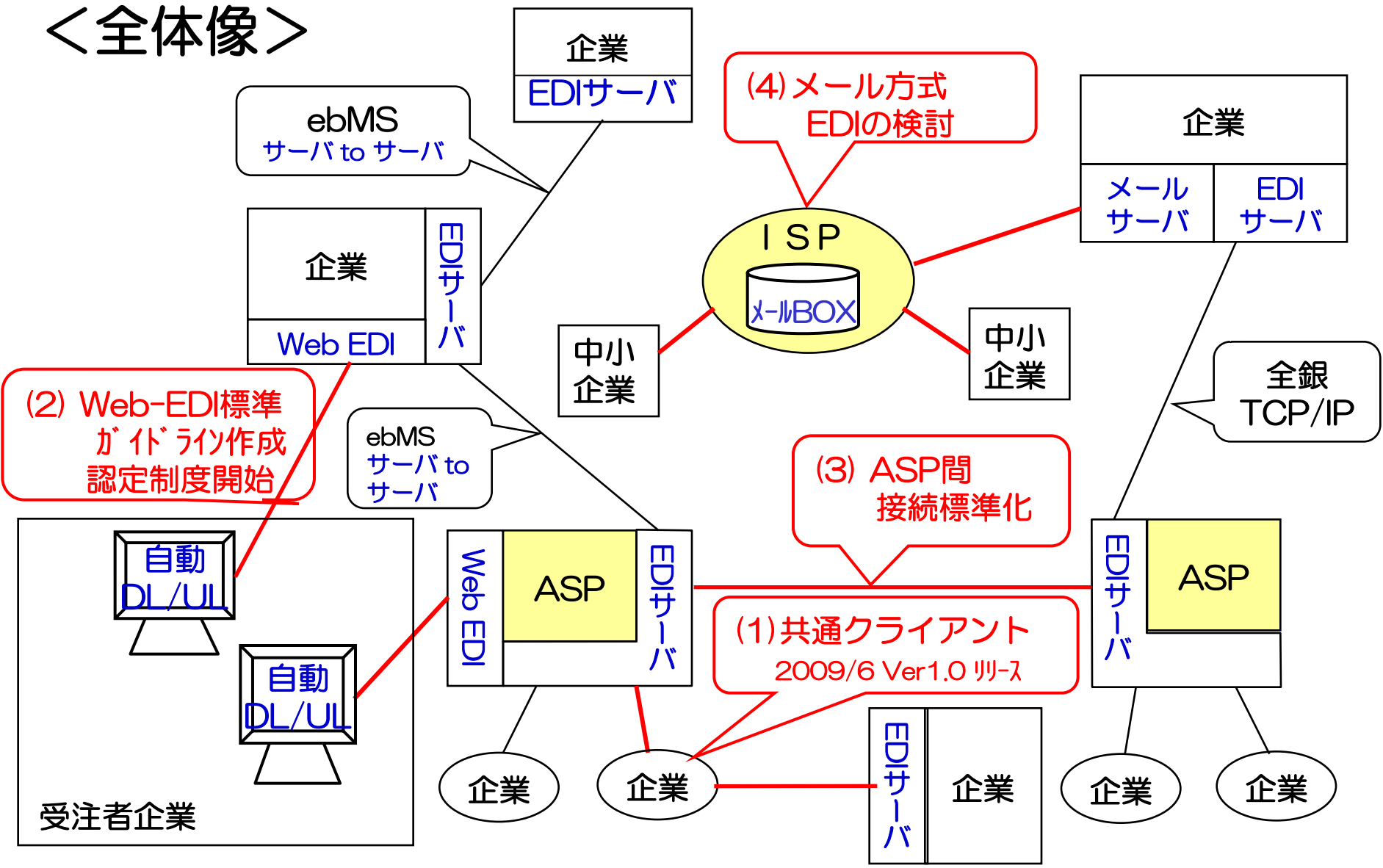
1-3 EDI標準と情報技術委員会の活動対象

標準化レイヤー		内 容
ビジネスプロセス (業務モデル)		・ビジネスシナリオ ・業務運用規約 等
標準メッセージ		・XML ・CII
EDI共通基盤 (情報伝達の ためのインフラ)	プロセス 制御	・BPSS (必要に応じて選択)
	EDI 転送	・ebMS、全銀手順 等 ・ASP相互接続/運用標準

- ・国際標準・国内標準・業界標準の優先順位で採用検討
- ・業務運用環境、ネットワーク環境を考慮した標準化推進

1-4 EDI共通基盤における07~10年度取組み

<全体像>



1-5 平成21年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要

(1) 実証実験の全体概要

JEITAは、「業界横断情報連携」「ASP間連携」の2つの観点から、
「受注企業にとって複数の業界の発注企業と1つのインタフェースでEDIを実現する」
環境の実現を目指し、実証実験を実施。

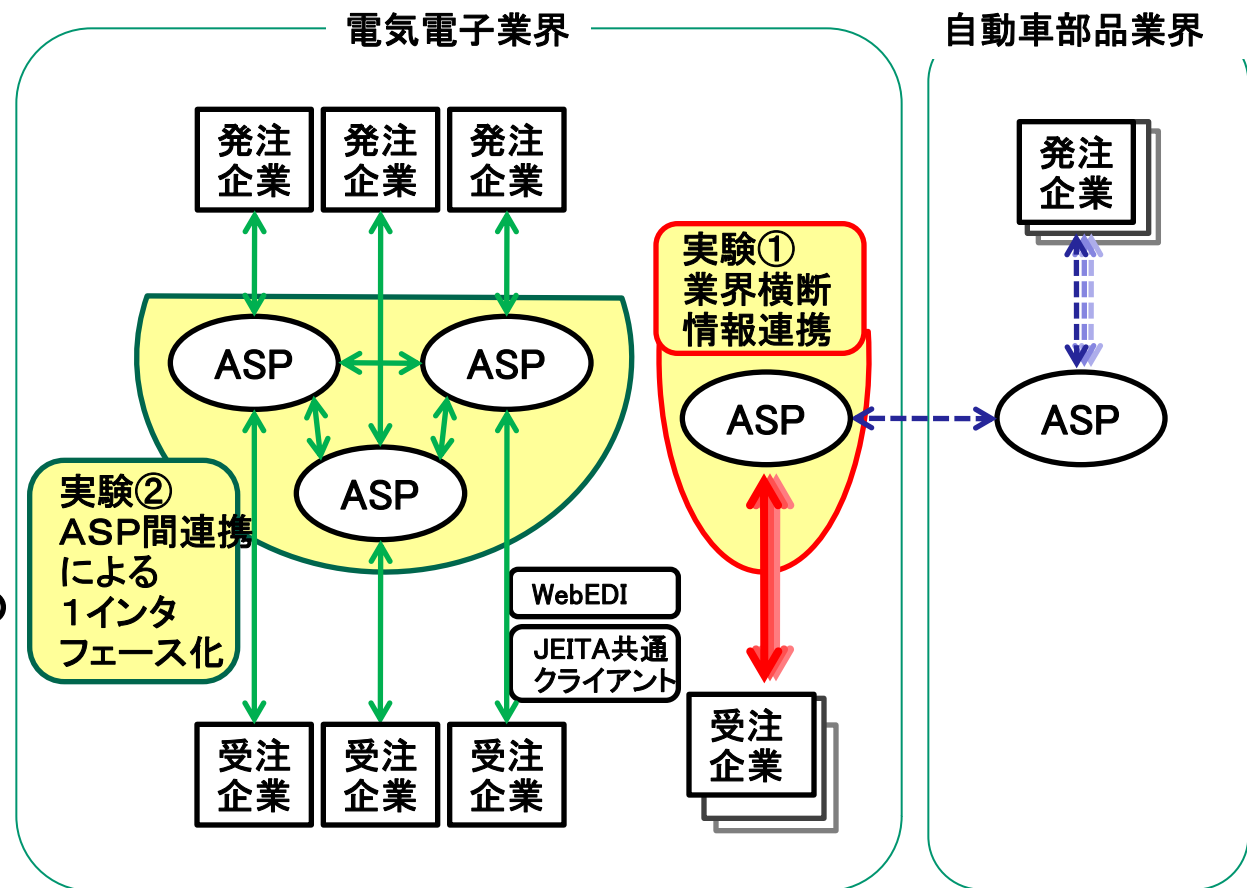
【実験①】

業界を横断するEDIを
実現するための
ビジネスプロセス調整と
業界横断メッセージ作成

特に、自動車部品業界との
業界横断情報連携の実証実験

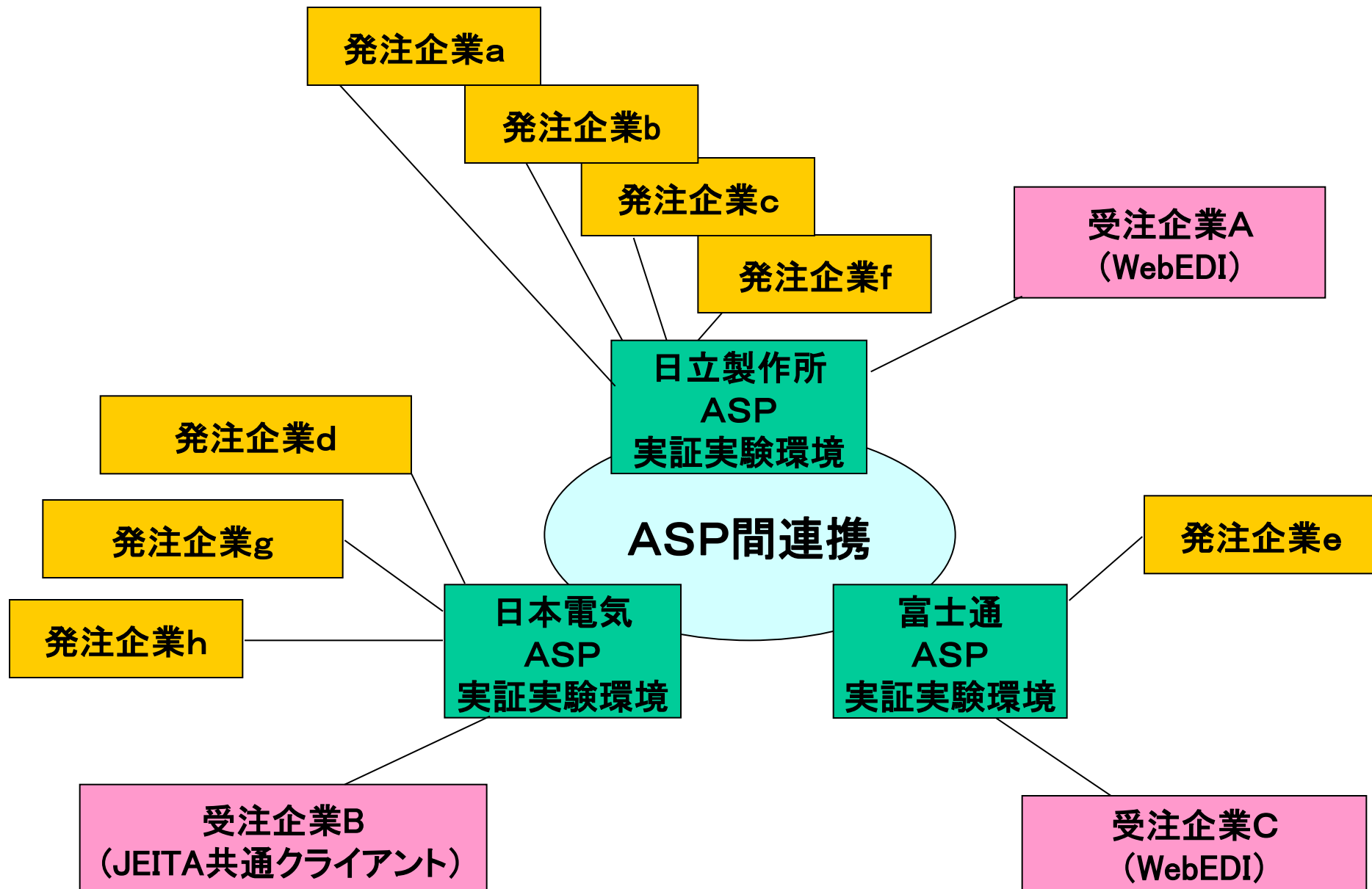
【実験②】

受注企業のEDI接続を
1インターフェース化するための
ASP間連携の実証実験



1-5 平成21年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要

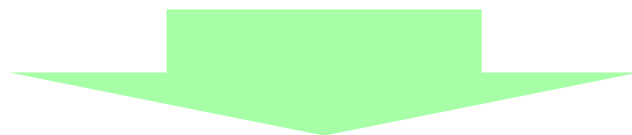
(2)実験「ASP間連携」:実験参加企業の接続全体像



1-6 ASP連携実用化の活動について

ASP間連携による1インタフェース化の取組

- ・注文変更や納期回答など、今回対象外としたメッセージ、双方向のメッセージ交換実証実験の実施検討。
- ・「JEITA/ECALGA ebXML手順 実装ガイドライン」のebMS3.0への対応見直し。
- ・ASP間連携のサービス化に向けて、運用ルールの検討とガイドラインの作成。



ASP連携標準ガイド 3部作

「システム編」、「運用ルール編」、「実装ガイド」の完成とリリース。

— 目 次 —

2. JEITA標準クライアントの改修について

2-1 JEITA共通クライアントとは

2-2 JEITA標準クライアントの改修について

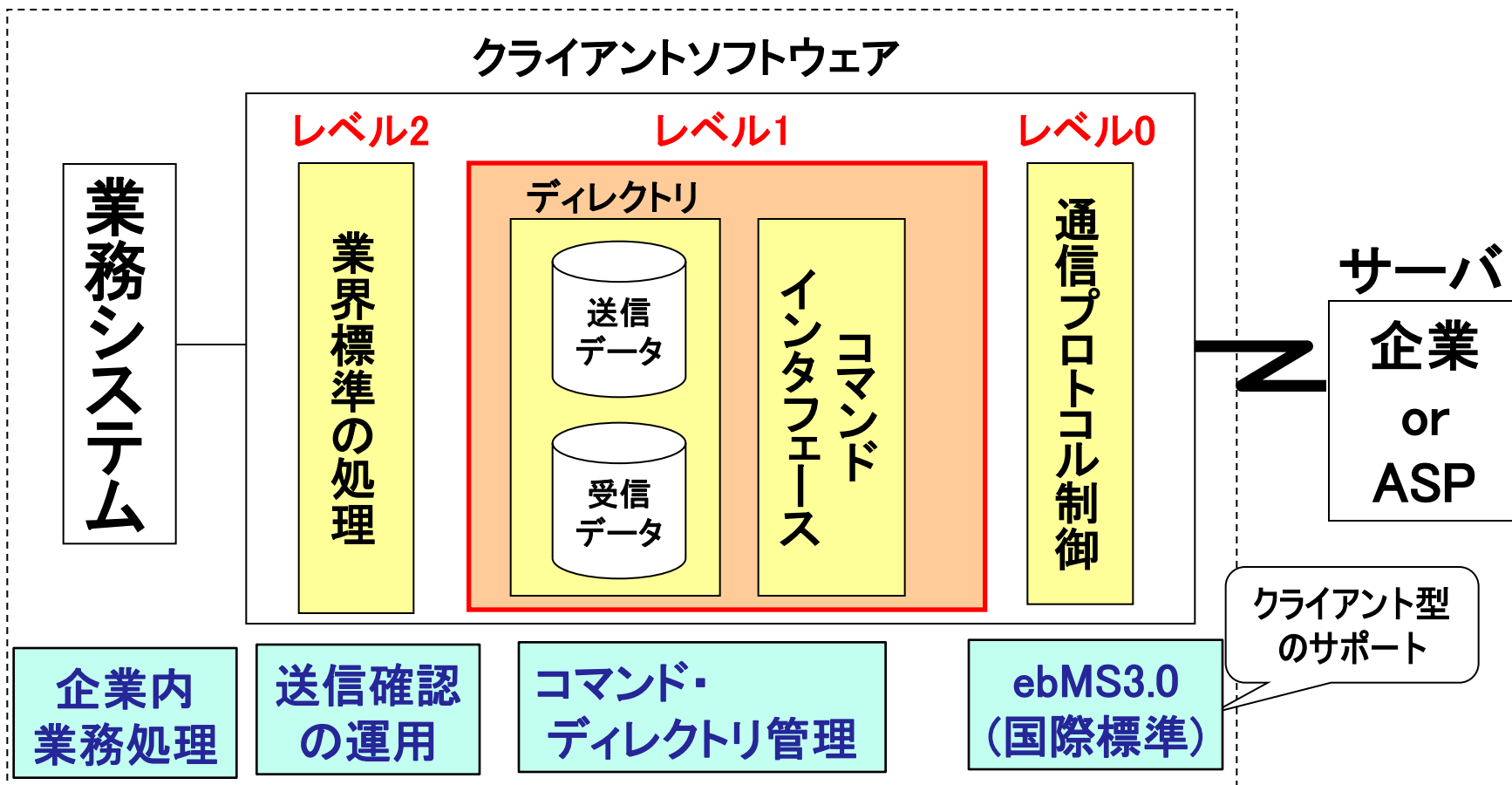
2-3 JEITA共通クライアントの入手方法

2-1 JEITA共通クライアントとは(1/2)

◆ECALGA2007Aに新規追加したebMS3.0対応の無償クライアントソフト

◆ ソフトウェアの機能概要

- ・ レベル0：通信プロトコル制御⇒国際標準ebMS3.0(**Pull型**)準拠
- ・ レベル1：送受信コマンド制御とファイル管理
- ・ レベル2：業界標準ビジネスプロセス管理／運用制御

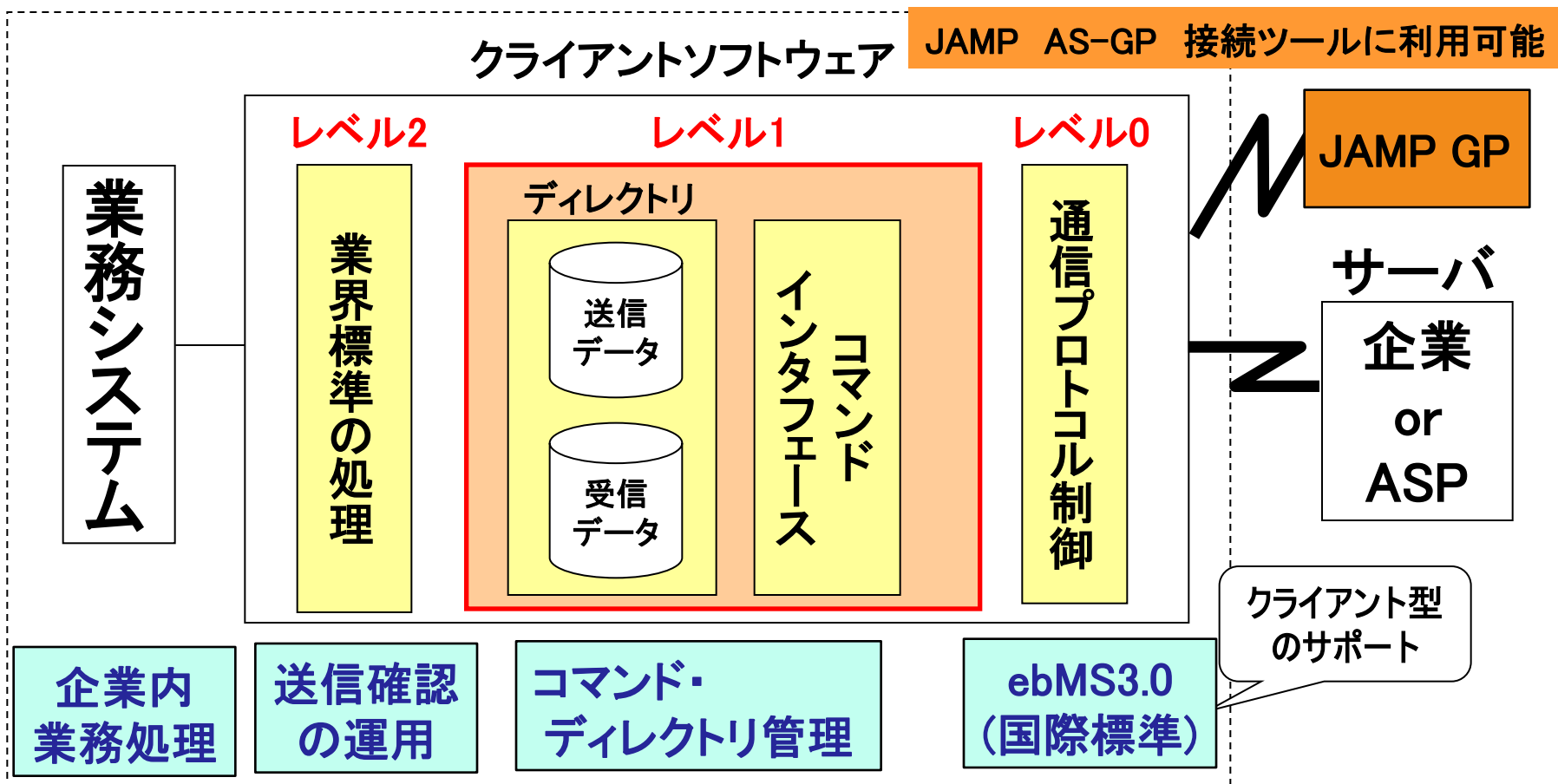


2-1 JEITA共通クライアントとは(2/2)

◆ECALGA2007Aに新規追加したebMS3.0対応の無償クライアントソフト

◆ ソフトウェアの機能概要

- ・ レベル0：通信プロトコル制御⇒国際標準ebMS3.0(**Pull型**)準拠
- ・ レベル1：送受信コマンド制御とファイル管理
- ・ レベル2：業界標準ビジネスプロセス管理／運用制御



2-2 JEITA標準クライアントの改修について

1) 現行JEITA標準クライアントについて

- ・リリース日 : 2009年6月3日
- ・動作環境: ebMS3.0 対応正式版
Windows2003 SP1.0,2.0 XP SP2.0 Java1.5対応
- ・利用範囲: 国内利用に限定
- ・費用: 無 償

2) Java1.6 対応版 JEITA標準クライアントの提供について

- ・リリース日予定: 2011年2月末
- ・動作環境: ebMS3.0 対応正式版
OS、JavaVersion下記組合せ対応版のクライアントソフトを提供予定
対応OS : Windows7, WindowsVista, WindowsXP SP2.0
Java version: 1.5, 1.6
- ・利用範囲: 国内利用に限定
- ・費用: 無 償

2-3 JEITA共通クライアントの入手方法

・リリース予定:2011年2月末

・D/L 手順:

JEITA HPより、共通クライアントソフト
D/Lページに遷移し、利用規約の内容に
意の上、名刺情報を入力しD/L下さい。

JEITA/ECセンター - 共通クライアントソフトウェア ダウンロード(2/4) - 名刺情報入力 - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://ec.jeita.or.jp/form/data/edi_client.cgi

JEITA 共通クライアント

共通クライアントソフトウェアダウンロード(2/4): 名刺情報入力

- 登録に先立ち、「JEITA共通クライアントソフトウェア利用規約」に同意しました。
- お客様のお名前、ご住所等、下記項目に入力して下さい。
- 英数字は、全て半角で入力して下さい。
- カタカナ、ひらがな、漢字は全て全角で入力して下さい。
- 入力をすべてやり直す場合は「消去」ボタンで、全ての項目をリセットして下さい。

企業名称[必須]	
部署・役職1	
部署・役職2	
氏名[必須]	
郵便番号[必須]	〒
住所1[必須]	
住所2	

JEITA/ECセンター - B2Bビジネスプロセスの電子化・標準化をグローバルに推進 - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://ec.jeita.or.jp/

JEITA EC CENTER

社団法人 電子情報技術産業協会 ECセンター
Japan Electronics and Information Technology Industries Association EC Center

BtoBビジネスプロセスの電子化・標準化をグローバルに推進

お知らせ 最新ニュース

企業間コラボレーションを実現する新EC標準

共通クライアント

共通クライアントソフトウェア ダウンロード 案内

ネットを活用したEDIデータの送受信を安価かつ容易に実現する
取り組み、『共通クライアントソフトウェア』を開発致しました。
ソフトウェアは、JEITA ECセンターが電子データ交換(EDI)
進活動の一環として無償提供するものです。
ソフトウェアの利用に当たっては、**利用案内及び利用規約**を一読
ドを実行して下さい。
ホームページからダウンロードした時点で、利用規約が適用されます。

共通クライアント(無償提供:日本国内のみ適用)

したEDIデータの送受信を安価かつ用意に実現

JEITA-ECセンター

ソフト本体、マニュアル

ダウンロード/インストール

企業

クライアントPC

インターネット

サーバ (ASP or 企業)

共通クライアントソフトウェア (送受信機能に特化)

送信

受信

EDIデータ

「通信プロトコルは国際標準ebXML ebMS V3.0に準拠」

【共通クライアントソフトウェア ダウンロード】

— 目 次 —

3. JEITA Web-EDI 認定活動状況報告

3-1 認定制度の概要

3-2 認定状況（'08/7/1～'10/12/31）

3-3 申請における注意事項

3-4 認定制度の見直し

3-5 ガイドラインの活用方法

3-6 標準認定の推進

3-1 認定制度の概要

目 的

JEITA Web-EDI ガイドラインを遵守戴くことによって、EDIの普及促進を図る。

制度開始

2008年07月より スタート

ガイドライン

Web-EDI利用者側に過度の不便さ、使い勝手の悪さ等の問題が発生しないよう、対応することが望ましい事項についてまとめています。

審査方法

Web-EDI ガイドライン 認定チェックシートをご提出いただき、JEITA情報技術委員会にて審査します。

申請単位

Web-EDI の「システム/サービス」単位 または、「利用者」(企業)単位

認定されると・・・

- ・JEITAより、認定されたWeb-EDIシステムで利用可能な認定マークを発行。
- ・JEITA ECセンターホームページで、認定されたWeb-EDIシステム名称を公開し、申請企業の標準化に対する貢献を広くアピールします。

費用

無料(但し、2年毎の更新申請が必要です)

3-2 認定状況（'08/7/1～'10/12/31）

— 2年で16社14システムの申請を受け審査を実施 —

■認定受付件数：「16社」－「14システム（サービス）」

- ・自社開発システム： 2社-2システム
- ・構築型パッケージソフト： 6社- 6システム（内1社 ASPサービス同時申請）
- ・ASPサービス： 6社- 7システム（内1社 構築型パッケージソフト同時申請）
- ・ASP利用者： 3社

■認定結果：認定 14社-11システム（内、'10年度 新規2社-2システム、更新9社-9システム）

■認定システム利用ユーザ（'10年12月時点 認定企業向けアンケート集計より）

- ・Web-EDI 利用発注企業社数： 約550社 ≤（'09年調査）305社よりUP
- ・Web-EDI 利用受注企業社数： 約32000社 ≤（'09年調査）11000社よりUP

■認定企業一覧：（認定番号順）

（株）日立製作所、富士通（株）、日本電気（株）、大興電子通信（株）、
三菱電機情報ネットワーク（株）、（株）オーグス総研、NECソフト（株）、TDK（株）、KOA（株）、
（株）オネスト、キャノンITソリューションズ（株）、（株）村田製作所、（株）ニュートラル、（株）東芝
掲載ホームページ： http://ec.jeita.or.jp/web_edi/corporate_list.html

3-3 申請における注意事項

＜申請における注意事項＞

■Web-EDIのみで必須機能を満足していないケース

Web-EDIのみを利用しているユーザがいる場合で、ダウンロードなどの必須機能を満たしていない場合は、NGとなるケースがある。

⇒FILE転送型(従来VAN型EDI)を補助手段として併用する場合はOK。

■標準帳票の規定外利用

標準納品書等を利用している場合で、レイアウトが規定外、バーコードの位置が大幅にずれている等は、NGまたは“条件付認定”になるケースがある。

⇒特にバーコードの位置はバーコードリーダー(自動読取り)を意識ください。

■CIIコード以外の企業コードが使用されている、JEITA/ECALGA標準規定以外のデータ種、データ項目が使用されている場合は、NGとなるケースがある。

＜審査委員会からのお願い＞

■JEITA/ECALGA標準メッセージのバージョンは、継続的にご対応いただきたい。

■対応することが望ましい機能について、継続的にご対応いただきたい。

3-4 認定制度の見直し(1/4)

認定制度の開始から約2年が経過した事を契機に、認定制度、認定基準の改善点や課題を抽出して、見直しを実施中。

(1) 認定フローの明確化

- ・条件付認定ケースの運用を検討
- ・認定更新 事務連絡フローの見直し

(2) 認定基準(ガイドライン、認定チェックシート)の見直し

- 現行ガイドラインおよび認定チェックシートの記述文や重要度などの見直し、改善、課題等がないか、EDIの現状を踏まえて洗い出し、検討中。
- JEITA/ECALGA標準(SCM、ECM、海外対応)における追加基準がないか検討。
- 他業界標準化の動向を参考に見直しを実施。

(3) 認定マークの見直し(予定)

ガイドラインおよび認定チェックシートの改訂が行なわれた場合を考慮し、認定マークの見直しを検討中。

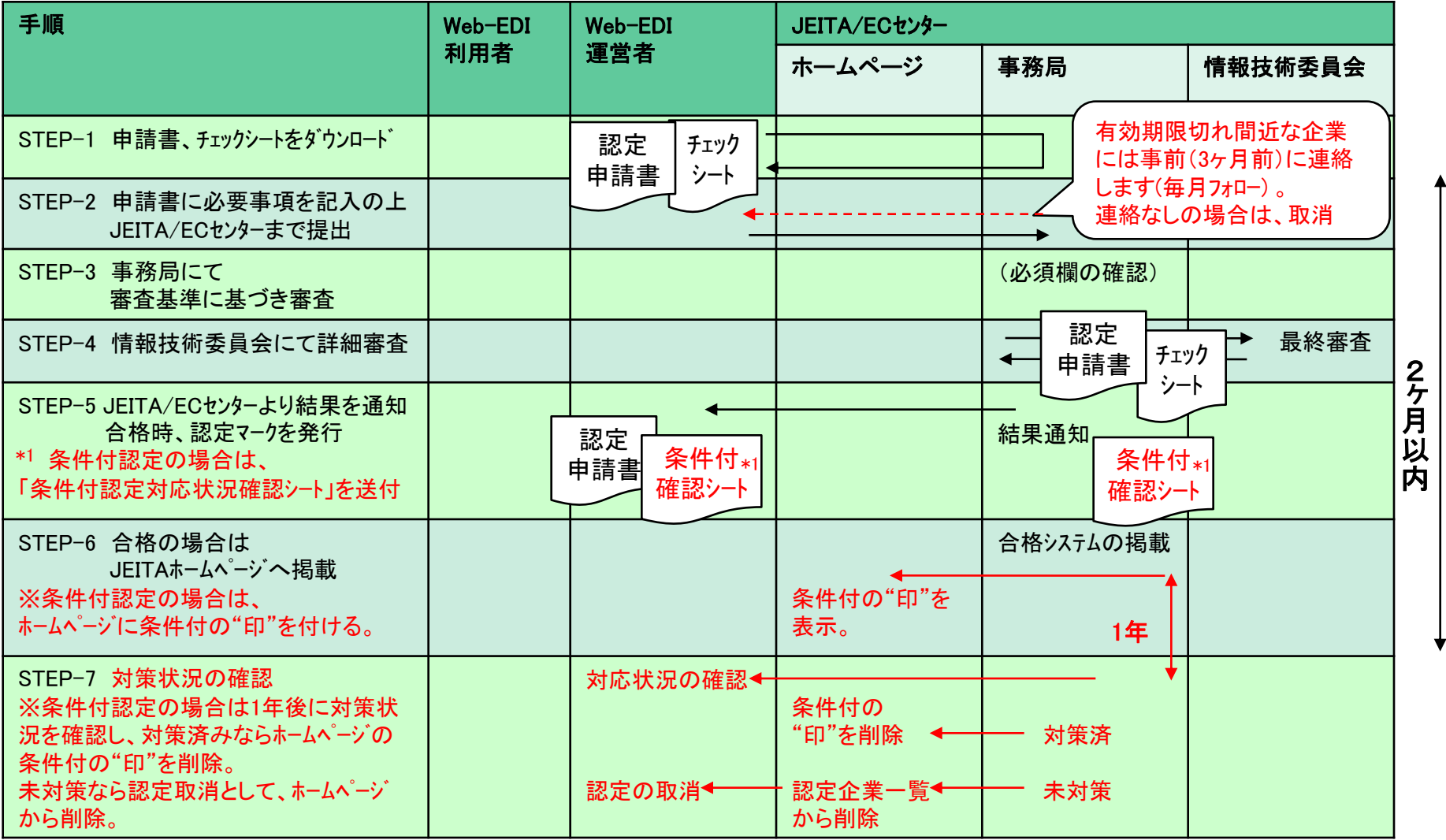
例) 有効期限(YYYY.MM)、認定チェックシートVersionの表記など。

＜改訂時期＞ 新認定基準、新認定マークは、2011年7月頃より運用開始(予定)

3-4 認定制度の見直し(2/4)

(1) 認定フローの明確化

(例) 条件付認定ケースの運用(新規/更新申請の場合) ※更新のみの運用は点線で示しています。



3-4 認定制度の見直し(3/4)

(2) 認定基準(ガイドライン、認定チェックシート)の見直し

(現行) EDI利用者、特に受注者側でのデータ再利用の促進を主眼に作成

- 情報種、データ項目について: JEITA/ECALGA標準準拠を必須とする
- 新着情報の通知について: 少量データユーザへの運用を配慮し必須とする
- ファイルダウンロードの操作: WEB-EDI操作画面上にダウンロードボタン設置を必須とする
- ファイルアップロードの操作: 今後の利用度UPを見込み推奨機能とする
- ファイルフォーマット: CII形式、XML形式、CSV(TSV)形式いずれかで実現する事が必須

(新) 現行ガイドライン1.0で曖昧な記述文、重要度の見直し。運用についても着目。
JEITA/ECALGA標準(SCM、ECM、海外対応)における追加基準がないかを検討

- 推奨機能で、業界での普及率が高まってきたと判断できる場合は、重要度を必須にすることを検討中。
例) アップロード機能: 発注企業が受注企業から情報(見積回答、出荷情報など)を入手している(利用者が増加しつつある)場合など
- 運用面で基準が守られていない部分があると判断される場合は、追記を検討中。
例) ・企業コードについて: CIIコードの使用を必須とするガイドライン
・帳票について: 帳票をサポートする場合、レイアウト等の遵守を必須とするガイドライン
・使用文字コードについて: JIS基準等 規定を必須または推奨するガイドライン
- 海外対応に関する新基準の追加
海外対応をしているWeb-EDIシステムに対して、遵守してもらいたい基準を検討中。
例) ・ビジネスドキュメント(フォーマット等)、コード定義、運用ルールなど。

3-4 認定制度の見直し(4/4)

(3) 認定マークの見直し

<認定マーク(例)>



YYYY.MM VersionX.X
(検討中)

- ・ガイドラインや認定チェックシートの改訂、認定更新が行なわれた場合を考慮し、有効期限(YYYY.MM)、認定チェックシートVersionの表記を検討中。
- ・今後(将来的に)、海外対応など、機能の対応状況を示す表記を追加する可能性がある。
- ・旧バージョンの認定マークの使用について
移行期間を考慮して、期限を決めて使用を認める方向で検討中。
例)二世世代前までの認定チェックシートでの認定申請(更新)も可能とする等。

3-5 ガイドラインの活用方法

EDI(Electronic Data Interchange)の本来の目的である、システム間データ連携を実現するためのガイドライン

【新規Web-EDIシステム導入時での対応】

- 自社で開発する場合：
本来のEDI機能実現に関する標準仕様として利用ください。
- ASPを利用する場合：
ガイドラインの内容をASP業者選択の際のチェック項目として利用ください。

【既存Web-EDIシステムでの対応】

- システム改訂を実施する場合：
機能拡張やバージョンアップにともない、Web-EDIの改訂や見直しを実施する場合は、本ガイドラインの推奨機能の適応をお願いします。

現在、認定申請は、ASPベンダー、構築型パッケージが大半。
Web-EDI利用者からの申請は、3社・・・
=>今後、「利用者」認定の拡大をはかる。

3-6 標準認定の推進

業界の活性化、企業活動の効率化のためにガイドラインの遵守をお願いすると共に、今後ともWeb-EDI標準認定の申請を、ベンダー、利用者双方よりお待ちしております。

【JEITA ECセンター／Web-EDI ガイドライン ホームページの紹介】

URL : <http://ec.jeita.or.jp>

申請方法ほか 各種情報を掲載しています。

- 認定制度の目的
- 各種申請手続き手順のご紹介
 - ・新規登録申請手順について
 - ・更新申請手順について
 - ・登録内容変更申請手順について
- 認定マークご利用上の注意
- 申請に必要な各種資料
 - ・認定申請書および認定申請書の記入例
 - ・チェックシートおよびチェックシートの記入例
- 認定企業一覧 (http://ec.jeita.or.jp/web_edi/corporate_list.html)

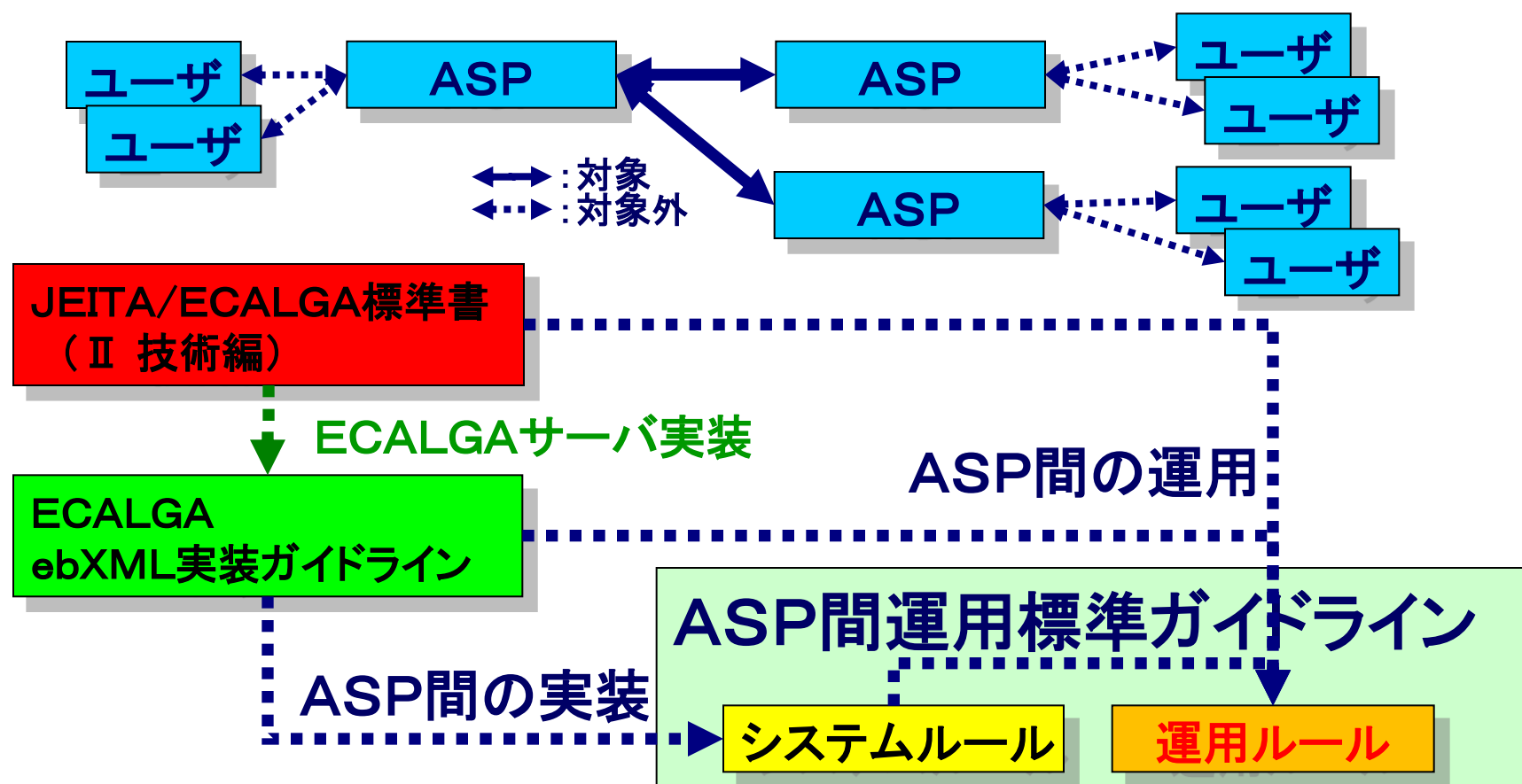
— 目 次 —

4. ASP標準化WG活動状況報告

- 4-1 ガイドラインの作成
- 4-2 システムルール
- 4-3 送達確認について
- 4-4 責任分界点
- 4-5 障害対応
- 4-6 テスト方法
- 4-7 今後のロードマップ

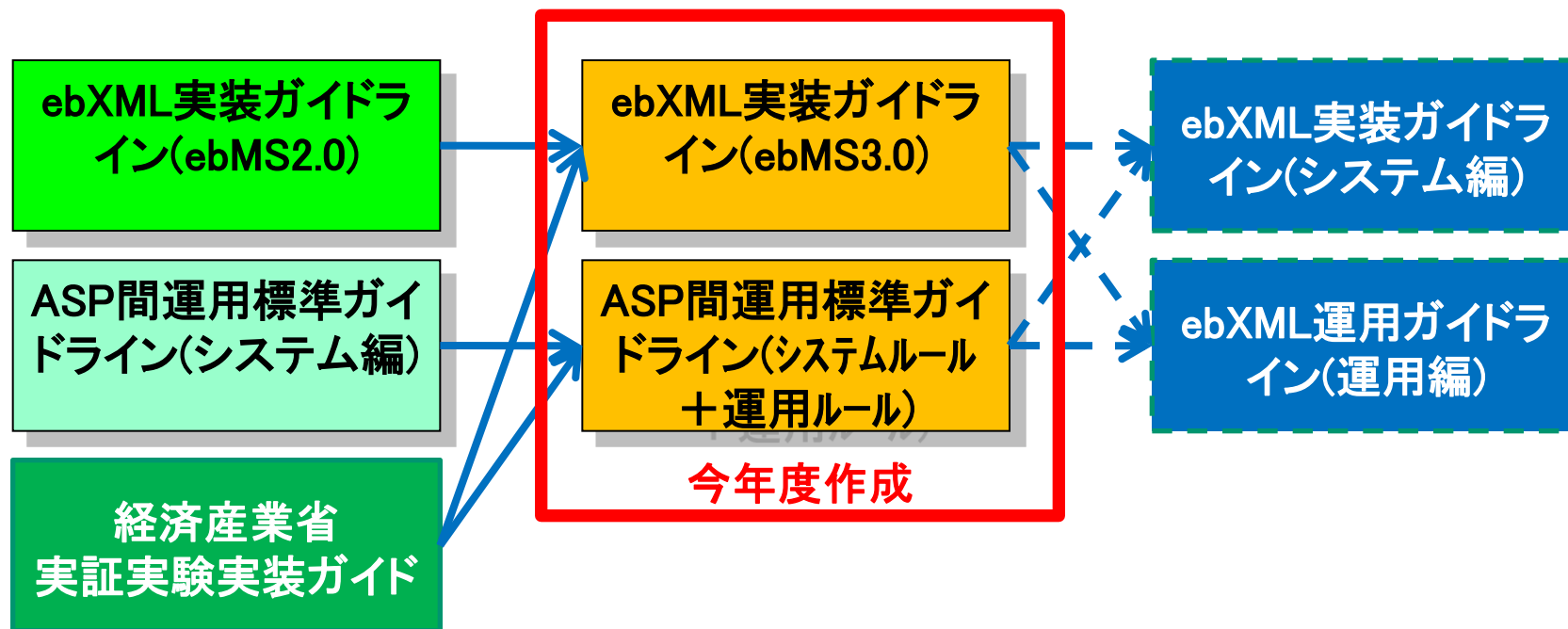
4-1 ガイドラインの作成

- 位置付: 「JEITA/ECALGA標準書」と「ECALGAサーバ実装ガイドライン」の補足ガイド
- 狙 い: 複数ASPの接続を通して、ユーザが業務を遂行するための、ASP間の運用のガイド
- 内 容: ASP間接続の運用規定として、システムルール、運用ルールの二種類を規定した。
 - ・システムルール: 「ECALGAサーバ実装ガイドライン」の延長上に、ASP間における実装上の運用規定
 - ・運用ルール: 「ECALGAサーバ実装ガイドライン」や「本ガイドのシステムルール」のASP間運用規定



4-1 ガイドラインの作成:見直し

- ・本年度は、現状のebXML実装ガイドラインとASP間運用標準ガイドラインを強化した。今後、再構成も検討する。
- ・**ebXML実装ガイドライン**は、ebMS3.0版としてバージョンアップし、既存のebMS2.0版は、仕様FIX扱いとする。
- ・**ASP運用標準ガイドライン**は、運用ルールを強化する。
- ・今年度、環境・汎用技術情報交換の実証実験で実証検証



4-1 ガイドラインの作成:目次

・ebXML実装ガイドライン(ebMS2.0 →**ebMS3.0**)

#	章名称
1	1章 目的
2	2章 ebXML手順実装ガイドライン概要
3	3章 メッセージ形式について
4	4章 CPAについて
5	5章 BPSSについて
6	6章 BPSSとebMSの連携について
7	7章 テスト手順について

・ASP間運用標準ガイドライン(システムルール+**運用ルール**)

#	章名称
1	目的と位置付け、標準化の範囲
2	ASP間接続利用形態、従来VAN 間接続との違い、通信手順、ASP間接続振り分け機能
3	転送機能、CPA及びBPSS管理
4	送達確認について
5	責任分界点、料金
6	障害対応、エラー通知
7	テスト方法

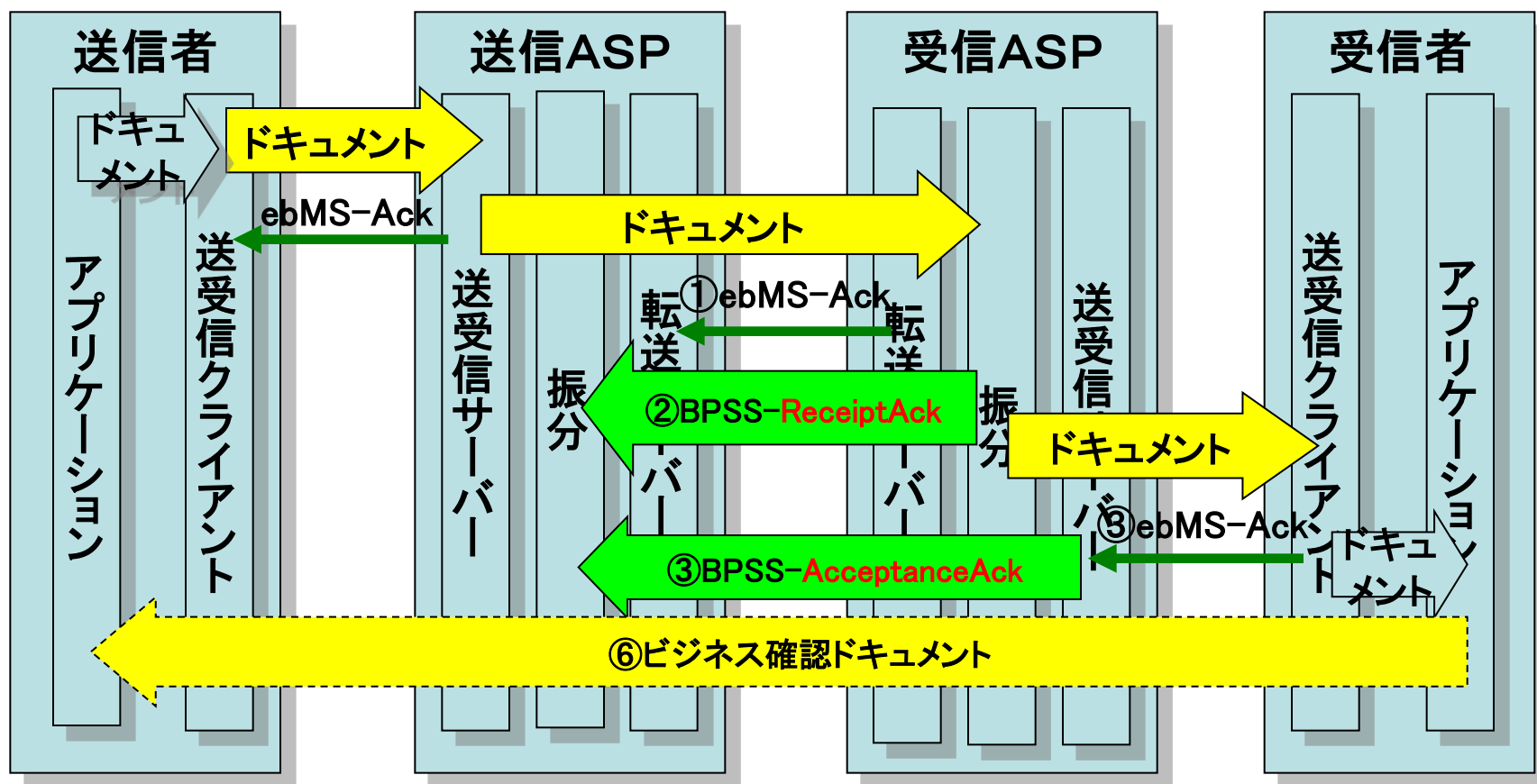
4-2 システムルール

No.	分類	ASP間接続	VAN間接続
1	通信環境	インターネット	公衆網、専用線
2	通信手順	ebXML手順(グローバル標準、SSL暗号化、ID認証)	全銀協手順
3	ドキュメント (バージョン)	XML及びCIIドキュメント等 任意のドキュメントを利用可能 (ECALGA Ver2003A以降、EIAJ 2J以降など) さらに、 添付ファイルも利用可能 (複数添付ファイルも可)	CIIドキュメント (EIAJ 1A以降)
4	ドキュメント ヘッダ	プロバイダコード+センタコード+送受信者コード+カンバ セーションID	プロバイダコード +センタコード+ 送受信者コード
5	転送ファイ ル単位	送達確認も意識したEDIタイプ (a) コラボレイティブEDIタイプ (カンバセーションID単位) 1送信者-1受信者-1情報区分-1注番 (b) ベーシックEDIタイプ (情報区分単位) 1送信者-1受信者-1情報区分-M注番 (c)バッチEDIタイプ・・・>バッチ型転送 K送信者-L受信者-N情報区分-M注番	バッチEDIタイプ K送信者-L受 信者-N情報区 分-M注番(送 信タイミングかつ 伝送ファイルサイ ズ単位)
6	送達確認	BPSS-Ack (グローバル標準) ①受信確認(ReceiptAcknowledgment) ②受領確認(AcceptanceAcknowledgment) ※BPSS: ebXML Business Process Specification Schema	受信確認 メッセージ
7	調整事項	CPA :(グローバル標準)、ASP間用 共通CPA ※CPA: ebXML CPA Collaboration Protocol Agreement	個別交換

4-3 送達確認について

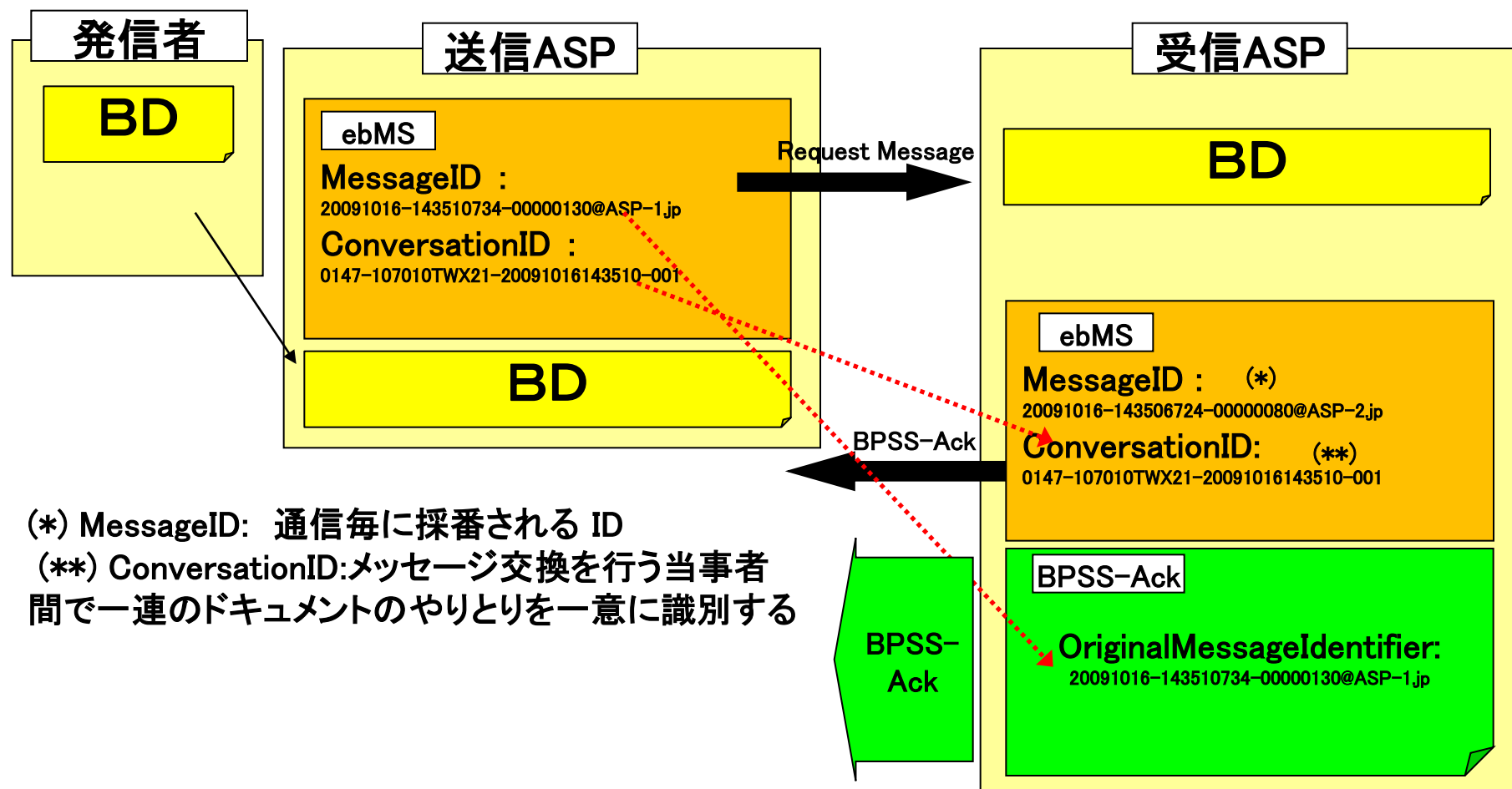
・ドキュメントと送達確認レベルにより確認シグナルを規定

- ・**ReceiptAck**: 受信ASPが、ドキュメントを受信・振分完了したとき送信
- ・**AcceptanceAck**: 受信者が、受信ASPからドキュメントを受信完了したとき送信



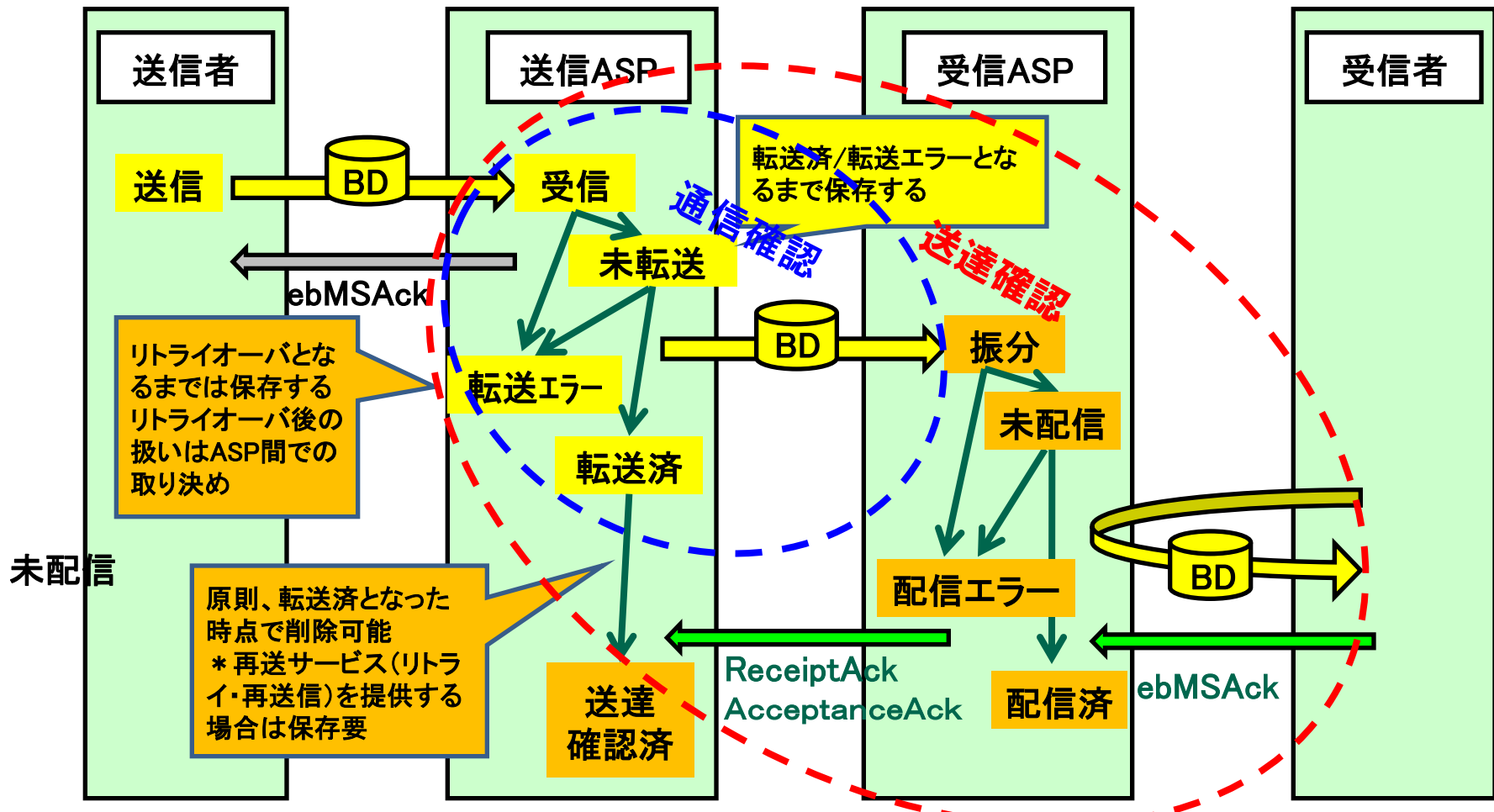
4-3 送達確認について:通信規定

- ・通信レベル(メッセージとAck)はMessageIDを、業務レベル(ドキュメント)はConversationIDを利用し紐づける。



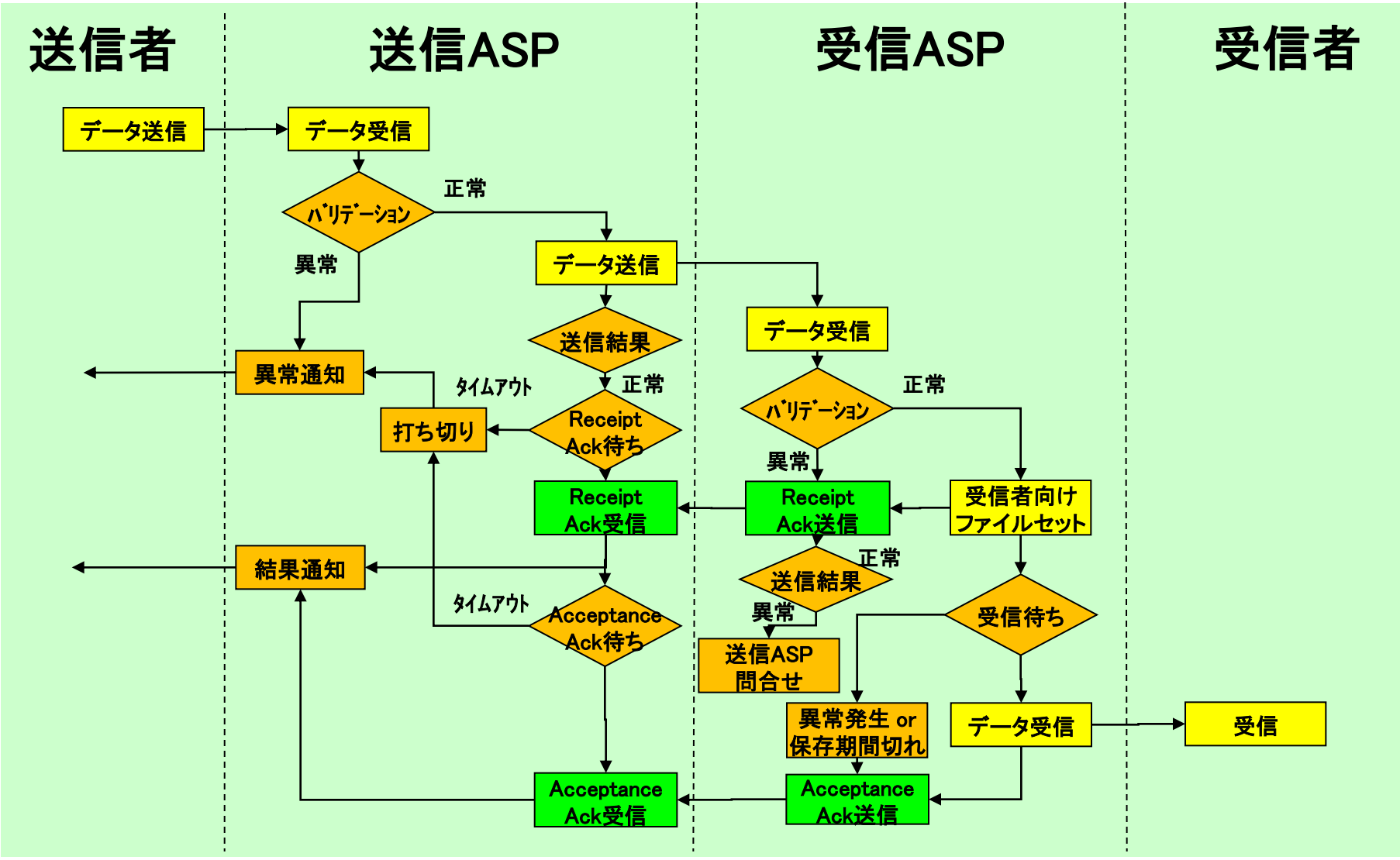
4-4 責任分界点:データ保存期間

・データ保存期間:転送、未転送・転送エラーや、未配信、配信エラー、送達確認済などのステータス(通信や送達の確認レベル)によるデータの取り扱いを規定。



4-5 障害対応: 障害対応手順

・各発生タイミングにおける想定事象と対処方法を規定。



4-5 障害対応:エラー通知

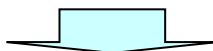
- ・障害対応の自動化のため、エラー通知(エラーコード)を規定。
- ・エラーコードにより、自動リトライ/再送可否を識別。
- ・エラーコード: 正常、警告エラー、通信エラー、環境エラー、データエラー、アプリケーションエラー、ビジネスエラー。

検出箇所 通知方法	送信者	送信ASP	ASP間	受信ASP	受信者
通信確認	・環境エラー ・通信エラー				
受信確認		・データエラー ・アプリケーション エラー	・通信エラー	・データエラー ・アプリケーション エラー	
受領確認					・通信エラー
ビジネス確認					・データエラー ・ビジネスエラー

4-6 テスト方法:テスト手順

- ・ASP間接続の導入にあたってのテスト手順を規定。
- ・ASPやEDIの**環境情報交換**
- ・ASP間とユーザ間の**確認テスト**

ASP環境情報の交換



EDI環境情報(CPA)の交換



ASP、EDI環境(CPAファイル作成とマスタ情報)の設定



ASP間確認テスト(ASP間テスト)



ユーザ間確認テスト(エンドツーエンドテスト)

※CPA: ebXML Collaboration Protocol Agreement

4-6 テスト方法：導入ケース

- ・導入ケースにより、テストレベルを規定。
- ・新規ASP間接続から、業務モデル(情報種)追加、ユーザ追加などの導入ケースにより、ASP間やユーザ間の確認テストレベルを規定。
- ・さらに、SSLサーバ証明書交換などの、運用上のASPやEDI環境情報の交換としての確認テストレベルの規定。

#	導入ケース	ASP間確認テスト	ユーザ間確認テスト
1	新規ASP間接続	(L1) 通信プロトコルテスト (L2) 通信手段テスト (L3) 業務テスト (L4) 異常系テスト	(U1) 疎通テスト (U2) 業務テスト
2	業務モデル追加	(L3) 業務テスト	(U2) 業務テスト
3	ユーザ追加	実施しない	実施しない
4	SSLサーバ証明書更新	(L2) 通信手段テスト	実施しない

4-7 今後のロードマップ

- ・今後、本実装ガイドライン及び運用ガイドラインをもとに、業界での実用化とともに、他業界横断やグローバル活用への実用化などに寄与できる活動にして行きたい。

